

DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2002.7.23 No.41

編集・発行 大同工業大学社会交流センター

〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3

TEL 052-612-6193

No.41



初夏のキャンパス

CONTENTS

平成13年度

学生意識動向調査アンケート結果報告

第37回宴祭

いつ来る東海大地震

国際交流

ホックスライン氏の来訪と
今後の短期留学について

TOPICS

文部科学省「科学研究費補助金」採択状況
共同研究・受託研究・奨学寄付金受入状況

ゴビーの散歩道

キッケルハーンの家小屋をたずねて

キャンパスライフ

アンテナ

大学院客員教授渡辺悟先生を偲ぶ
大同工業大学特別試写会「陽はまた昇る」

学部生・院生の学会発表状況

INFORMATION

季刊

大同工大キャンパス

夏季号 2002

JULY



7

平成13年度

学生意識動向調査アンケート結果報告

本学は、平成7年度に教育重視型の大学であることを宣言し、これまでに様々な教育改革に取り組んできました。平成12年末には長年の懸案であった新キャンパスが完成。4月から情報学部を加え、工学部の単科大学から2学部体制としてスタートを切りました。

これを機に更なる大学の飛躍を図るために、1月から2月に掛けて「学生意識動向調査」が実施された。この程、結果が纏まりましたので、概要報告をして頂きました。



学生意識動向調査ワーキンググループ
主査
上田英靖 教授

昨年12月の教授会において、澤岡学長が、本学学生の意識動向を調査したいという主旨の提案をし、了承されました。学長が提案した調査目的、調査方法および調査内容は次の通りです。

調査の目的

本学学生は、本学に対しどのような意識をもって毎日の学生生活を送っているのだろうか。本学の学生であることをどのように意識しているのだろうか。

その意識は、個々の学生においても学年進行とともに変化するであろうし、年々変化しているとみられる学生の資質の違いによっても相当に異なるであろう。

入学した学生の意識とその変化を把握することは、本学にとって今後の教育指針や広報のあり方を検討する際の資料として必要であるので、学生意識動向調査を実施する。本調査は、2年または3年ごとに実施することが望ましい。

調査の方法

全学部学生に対してアンケート方式(30分以内で回答できる分量)で行う。

調査の内容

本学を知るきっかけ、受験生時代の本学への意識・・・志望順位や本学へのイメージ、入学後に本学へのイメージは変化したが、本学への現在の満足度・・・不満な点を探る、学習への意欲・・・授業への出席状況、授業の難易度、習熟度別に授業を行うことへの意識調査・・・差別と感じるかそれとも望ましいと考えるか、01年度生に対してはキャップ制について、クラブ活動への参加状況、就職や大学院進学への考え方など

この学長の提案を受けて、アンケート質問項目の作成、アンケートの実施、その後の集計・分析作業を具体的に進めて行くために、各学科から1名、一般教養から2名、合計8名の教員から成る学生意識動向調査ワーキンググループが

設置されました。本年、1月中旬から2月上旬にかけて、多くの学部学生、教職員の協力を得てアンケートを実施することができました。アンケートに回答した学生数は2760名で、その当時の在学生の約80%に達していました。以下、アンケート結果の主なものを簡単にご報告しましょう。

本学の志望順位

受験した大学の中での本学の志望順位を聞いたところ、「第1志望」が952人(34.5%)、「第2志望」が633人(22.9%)、「第3志望以下」が1169人(42.4%)、無回答が6人(0.2%)となっていました。入学年度別に見ると、「本学が第1志望」と答えた学生の割合は、98年度生で28.9%、99年度生で29.5%、00年度生で34.1%、01年度生で44.2%となっており、最近になるほど上昇していることが分かりました。

本学の入学前および現在のイメージ

入学前の時点での本学のイメージを聞いたところ、「かなり良かった」が83人(3.0%)、「やや良かった」が433人(15.7%)、「どちらとも言えない」が1266人(45.9%)、「やや悪かった」が607人(22.0%)、「かなり悪かった」が340人(12.3%)、無回答が31人(1.1%)となっていて、どちらかと言えば、悪いイメージを持っていた学生が多いようです。

ところが、現時点でのイメージを聞くと、「かなり良くなった」が238人(8.6%)、「やや良くなった」が943人(34.2%)、「どちらとも言えない」が1046人(37.9%)、「やや悪くなった」が316人(11.4%)、「かなり悪くなった」が184人(6.7%)、無回答が33人(1.2%)となっていて、入学後に本学に対するイメージが好転する学生が多くなっています。この結果から、高校生やその父母、高校の先生方に本学の実態をよく知って貰うための本学のこれまでの努力(広報)が必ずしも十分でなかったことが分かります。

本学への満足度

本学の施設・設備、制度・カリキュラム、授業方法・内容、教職員に関して、20項目にわたって、学生の満足度を聞きましたが、ここでは、その中で特に気になる2つの項目について述べておきます。「本学への交通の便」についての項目では、「満足」と答えた割合から「不満」と答えた割合を引くと+8.8%となっていますから、交通の便が良いと思っている学生の方が多いのですが、「不満」を持っている学生もかなりいることが分かりました。「不満」な点を整理してみると、「大同町駅に急行が停車しない」と、「駐車場の狭い」ことの2点に集約できるようです。次に、「食堂、体育館、学生ホールなどの施設」についての項目では、「満足」と答えた割合から「不満」と答えた割合を引くと+9.9%となっていました。ただ、意外に感じたのは「食堂に対する不満」を持っている学生が多いということです。「不満」な点として、「昼食時に学生食堂が混雑する」、「値段が高い」、「メニューが少ない」、「不味い」といったことが挙げられていました。売店の品揃えの充実やファーストフード店の誘致を希望する意見も多くありました。これら2項目は、学生にとって毎日の生活の根幹に関わることでですから、何らかの改善策が必要でしょう。

学生の生活状況

勉学、クラブ・サークル活動、アルバイトについてかなり掘り下げて聞きましたが、ここでは、スペースの関係で次の1項目の報告に留めます。本学の授業内容のレベルを学生がどのように感じているかを聞いたところ、「かなり易しい」が102人(3.7%)、「やや易しい」が431人(15.6%)、「ちょうどよい」が944人(43.2%)、「やや難しい」が951人(34.5%)、「かなり難しい」が299人(10.8%)、無回答が33人(1.2%)となっていました。「難しい」と答えた学生が45.3%もいることになります。もちろん、本人の努力不足という

表1 キャップ制にとって重要な4項目を「知っている」割合～01年度生対象～

質問項目	知っている	知らない	無回答
1 上限履修単位数は半期20単位である	731人(92.6%)	44人(5.6%)	14人(1.8%)
2 授業時間の2倍の授業外学習を必要とする	383人(48.5%)	390人(49.4%)	16人(2.0%)
3 各科目に学習到達度目標が定められている	637人(80.7%)	136人(17.2%)	16人(2.0%)
4 小テストやレポートが頻繁に課される	494人(62.6%)	280人(35.5%)	15人(1.9%)



ことがあります。近年の高校教育の多様化によって、高校時代に、大学で工学を学ぶための基礎科目(数学や物理など)を十分履修していない学生が増加していることも大きな要因となっています。本学では、このような実情を踏まえ、01カリキュラムにおいては、高校で履修する内容も一部含める(数学・物理・化学や一部の専門科目など)と同時に、数学や物理では習熟度を考慮した授業を行っています。今後は、習熟度に配慮した授業を専門分野の多くの基礎科目にも広げて行く努力が必要でしょう。それにしても、高校時代に、数学や物理などを殆ど履修していない場合には、本学工学部や情報学部のある分野での勉学が著しく困難であることは事実ですから、高校生向け大学案内パンフレットなどで、高校時代に履修しておくべき科目を高校生にきちんと伝えることが大切であると思われます。

キャップ制について

本学は01年度生からキャップ制を導入しています。キャップ制に関する01年度生の理解度を調べるために、キャップ制にとって重要と思われる4項目を聞いてみました。その結果は表1に示す通りです。

本来、これらの4項目は相互に関連し合っているものですから、キャップ制の趣旨を多くの学生が正しく認識していれば、知っている割合は4項目について同程度となる筈です。残念ながら、多くの01年度生には、「履修できる単位数は半期20単位まで」ということが単に規則としてしか伝わっておらず、キャップ制の背景や意図(授業内容を無理なく理解できるように、十分な予習・復習時間を学生に保証する 理解できることを通して学ぶ楽しみを実感できる 学生の卒業時における質の向上を図る 高い就職内定率を今後とも維持する)が十分には伝わっていないということです。今後、キャップ制が適用される学生が増加することもあり、本制度が正しく理解されるような一層の努力が求められます。逆に、キャップ制が採用されていない100生以前の学生で「授業が多くてクラブ・サークル活動に参加しづらい」、「授業が多くて予習復習が十分にできない」といった不満を述べる者が多くいることもお伝えしておきます。

習熟度別クラスについて

このようなクラスを作ることについての賛否を学生に聞いたところ、「賛成である」が834人(30.2%)、「やむを得ない」が641人(23.2%)、「どちらともいえない」が834人(30.2%)、「どちらかといえば反対である」が171人(6.2%)、「反対である」が167人(6.1%)、無回答が113人(4.1%)となっていました。現状の本学の授業レベルの評価別に習熟度クラスへの「賛成」-「反対」の割合を調べると、「物足りない」では+70.6%、「やや易しい」では+68.2%と高率になっているのは当然ですが、「ちょうどよい」で+45.9%、「やや難しい」でも+32.2%となお比較的高く、「かなり難しい」でさえ+8.3%とプラスになっています。「難しい」と考えている学生でも、基礎学力にかなりの格差があることを認識しており、習熟度別クラスを差別と感じるより、自分たちにとって分かり易い授業をやって貰えるとの期待感が強いようです。いずれにしても習熟度クラスへの「理解度」はかなり高いと考えられます。

卒業後の進路希望について

1-3年次生および卒業研究を行っていない4年次生に卒業後の進路について幾つかの項目を質問しましたが、ここでは、就職活動をする際に大学にどのような支援を望んでいるかを報告しておきます。8個の選択肢を用意し、その中から3つ以内で挙げて貰いました。1938人が回答していますが、選択率の高い方から、「資格取得の支援」が897人(46.3%)、「企業データベースの充実」が802人(41.4%)、「親身な就職相談」が758人(39.1%)、「企業選択支援ツールの充実」が696人(35.9%)、「学科別求人票検索システムの充実」が653人(33.7%)、「就職対策講座の充実」が470人(24.3%)、「低学年からの就職支援」が387人(20.0%)、「OBやOGからのアドバイスを聞く機会」が210人(10.8%)、「特に希望しない」が114人(5.9%)となっていました。本学園にもこの4月からエクス

テンションセンターが発足し、各種資格取得講座が開講されていますので、資格取得に関心のある学生には、本センターを利用して貰いたいものです。また、就職指導部では、インターネットのホームページに「就職支援ページ」を開設しています。本学に蓄積されている約8000社の企業情報の検索、求人情報等の詳細な情報が得られますので、大いに活用して下さい。現在、各企業に対して、これまでに、どの学科の学生(OB, OG)が採用され、どの職位で活躍しているかの調査も進めており、各企業についての一層詳細なデータベースの更新・充実にも努めています。

卒業後の進路および満足度

卒業研究を行っている4年次生を対象に卒業後の進路および満足度について幾つかの質問をしました。ここでは、一般企業に就職が内定した学生(アンケート回答者の中の482名が該当)の進路についての満足度を報告します。「かなり満足」とする者が141人(29.3%)、「やや満足」とする者が162人(33.6%)、「どちらでもない」とする者が110人(22.8%)、「やや不満」とする者が24人(5.0%)、「かなり不満」とする者が11人(2.3%)、「無回答」が34人(7.1%)となっていました。無回答者を除いて「満足」-「不満」の割合を計算すると+59.8%となり、厳しい就職環境を考えれば健闘しているといえるでしょう。しかし、下の表2に1998-2000年度卒業生で一般企業へ内定した学生の就職満足度を参考までに記載しましたが、これらの数字と比べれば、「満足」-「不満」の割合は悪化していることが分かります。今後とも、大学としては、学生の就職活動には最大限の支援をして行きますが、学生諸君にも日頃から十分な勉強時間を確保し、授業内容をしっかりと理解する努力を求めたいと思います。幅広い教養と専門分野についての基礎学力を身に付けることが、就職活動についても最大の武器になるのです。

表2 一般企業に内定した学生の(就職)満足度(1998~2001年度)

年度	大いに満足	まあ満足	どちらともいえない	不満	「満足」-「不満」の割合
1998年度	29%	51%	16%	4%	76%
1999年度	25%	49%	21%	5%	69%
2000年度	35%	49%	12%	4%	80%
(2001年度)	32%	36%	25%	8%	60%

(注) 無回答者を除いて計算している。2001年度は本アンケートの回答に基づく。1998-2000年度は就職指導室の調査結果。

はね

H A N E

第37回宴祭

～やっば飛ぶならぶっちぎり!～

夏の到来より一足先に我々が大同工業大学で熱い熱い第37回宴祭が開催されました。めくるめくエンターティメントの中で来場者全員がFantasticなシーンを体験! 宴祭のFinalを見事に演出した後夜祭では会場にいる全ての人がキャンプファイヤーを囲み、歌って、踊って、飛んで…アンコールの大合唱では皆の気持ちが一つになり、降り出した雨さえ一瞬で吹き飛ばしてしまいました! 若者たちはこの場で確かに明日へと飛び立てる“はね”を手に入れたことでしょう。これら様々な企画を運営された大学祭実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。来年もこの一大イベントは要CHECK!

後夜祭

5/26

元チェキッ娘の下川みくへのプロコンサート!さらにはキャンプファイヤー、火文字、花火など様々なイリュージョンが炸裂!! これら圧巻のパフォーマンスに思わず感動!感激!感涙! 皆の熱い思いが夜空を焦がしたSpecial Night!!



前夜祭

5/24

FreeFood & FreeDrink!なんと用意された食べ物、ドリンクが全て無料!お酒も一杯たったの100円! これはもうお腹いっぱい食べるしかない! 滝春校舎芝生のステージ上で行われる様々なミニゲームに参加して豪華商品をGET!!



MAIN STAGE



Great entertainment!

美流輝移仮装行列 5/20

大同工業大学の学生たちがマスコットを担いだり、音楽の演奏をしながら栄のストリートをジャック！若宮公園を出発と同時に大雨が…しかし仮装行列は止まることなく行進を続け、雨宿りをする人々や通行人の注目を一身に浴びました。



大津通り



中区栄三越近く



若宮公園



久屋大通り

SPORTS MIX 5/21 5/24

(ボウリング大会、ドッチボール大会、3ON3大会)

各ゲームとも豪華商品等が用意され、大勢の学生たちが参加！W杯さながらの熱気で大いに盛り上がり!!



麻雀大会 5/23



A棟14階ラウンジに巨大雀荘が出現!

本 祭 5/25 5/26

豪華商品が当たるゲームなど盛りだくさんの企画！他大学の様々なサークルが大勢参加し、模擬店やSHOWなどで本祭は大賑わい！チアリーダーのダンスに、手相占いに、演武会に…etc,etc, もう朝から晩まで騒ぎっぱなしで、この楽しさはもう文句ナシ!



MAIN STAGE

いつ来る東海大地震



情報学部 情報学科
愛知 久史 助教授

古来から「地震、雷、火事...」と云われているように日本列島は地震国であり、これまで多くの地震災害に見舞われてきた。なかでも阪神・淡路震災は記憶に新しい所である。東海大地震に向けて観測網の強化や、防災対策に注視されているなか、不意に襲った阪神大震災は各界に大きな衝撃を与えた。

はじめに

地震発生の前には、小動物の異常行動、地下水の濁水や濁りとか地震雲などの異常現象についてはよく耳にするところである。近年、中国では地震(前震)や地盤変化の監視に加えて、地下水の異常や地電流、ラジオ・テレビの受信異常のほか、小動物の異常行動の監視による地震予知がなされている。また、ギリシャでは地電流観測法として有名なVAN法が地震予知に成果を上げていると云われている。

わが国でも、地震前に超低周波から高周波にわたる電磁波が震源から放射され、地震の発生前に検出されるなど、地震発生前に起こる異常現象の多くは電気磁気現象に起因すると考えられ、平成9年10月に電気学会において「地震に伴う電磁現象調査専門委員会(委員長:堀井憲爾・大同工業大学前学長)」が発足された。接地設備における接地抵抗の監視についても研究の対象となり、筆者らは大地変動に伴う電気抵抗の異常変化に対する検出手法について研究を開始した。

大地の導電性の変化

一般に地下は多層構造となっており、大地導

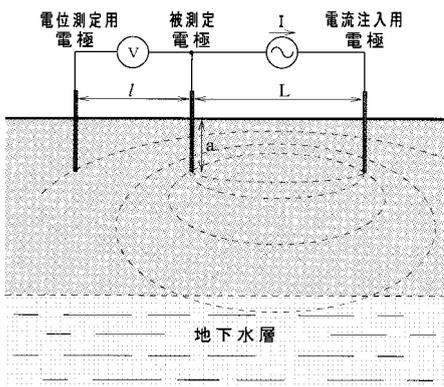


図1 接地抵抗の測定方法

電性は、特に地下水層の状態を敏感に反映する。その一例として、地震の予兆として古くより、井戸水が濁ったり濁れるなどと云われている。強い地圧力によって地下水が移動して、大地の導電性の変化の他にさまざまな現象、たとえば流動抵抗による地下水の発熱や汚染、あるいは流動帯電現象や地磁気との関係で流動電磁現象なども起こり得ると推測される。そのメカニズムは、まだ不明確であるが、地下水の深さ、水質の変化や地圧の変化、微小亀裂の発生などが考えられる。このように大地の状況(大地導電率等)は常に変動している。当然のことながら、接地電極の接地抵抗値も変動すると推測できる。

接地抵抗の測定

接地抵抗の測定方法は図1に示すように被測定電極とは別に埋設した電極(電流注入用電極)との間に電流(I)を流し、もう一つ別の電極(電位測定用電極)との間の電位差(V)を測定すれば、接地抵抗($R = V / I$)が求められる。ここで、大地深部の導電状況を接地抵抗値に反映させるためには、電流が地中深く流れるように被測定電極と電流注入用電極との距離を長くすることが必要である。地中に流す電流としては、直流と交流があるが、直流の場合は、電位測定端子に低周波フィルターを設けることによりパルス性および交流のノイズ混入をなくすることができる。反面、電極間の電池作用による直流成分が混入する。ただし、この直流成分は注入電流をゼロにしたときの電位差を差引けば除去できる。

地震の予兆

大地の導電性は、地下水位の変化以外に、例えば地下水温や導電性水溶成分、放射性地中ガス成分によっても変化し、あるいは地圧による大地の圧縮・膨張によっても大地の導電性そのものが変化する可能性がある。これらの現象は地震の予兆として接地抵抗の測定値に反映することも考えられ、接地抵抗の監視による地震予知への期待ができる。

4地点での観測

これまで、名古屋市南区大同町(大学敷地内)および瀬戸地区(トーエネック・瀬戸フィールド試験場敷地内)の2カ所において実測を行ってきた。その成果の一部については調査専

門委員会においてまとめられた電気学会技術報告第836号「地震に伴う電磁現象」に報告している。さらに現在、新測定システムを開発中であり、これを契機に愛知県新城地区ならびに浜松市都田地区での実測についても準備を進めている。特に、新城地区は中央構造線上に位置する特徴的な地理的環境にあり、浜松市都田地区は東海大地震警戒地域でもあることから、これら4地点での観測に注目したいところである。

大地震発生の可能性が強まる

調査専門委員会では、地電位・地電流観測、電磁放射波観測、大気異常現象や動物異常現象など、さまざまな見地から研究されている。中でも、中部大学・畑教授によって静岡県を重点的に電磁放射波観測が行われている。2001年3月から10月の期間中、静岡県大井川町でかなりの異常な電磁放射(17Hz)が観測され、その後一旦は電磁放射が解消されたが、最近再度放射が現れているとのことである。同氏によれば、この電磁放射波の強度の増大と繰り返し期間の短縮が続けば大地震発生の可能性が強まると推測されている。なお、これらの観測結果については、<http://go.to/konaka/> において公開されてる。

地震予報の発表される日が訪れる

東海大地震の発生については、2002~2005年を予想する研究者と20~30年先とするグループなど地震専門家の中においてもさまざまな意見に分かれているようであるが、地球的時間から見れば何時大地震が発生しても不思議ではない状況にあるとも考えられる。

筆者は現在、日本国内で発生している地震を毎日記録(<http://tenki.jp>で随時発表されている)している。2002年1月には114回の地震が発生している。中でも1月10日0時45分頃に三宅島近海で発生したマグニチュード:M4.7、震源の深さ110kmの地震や、1月12日6時58分頃に東海道沖で発生したM5.2、震源の深さ390kmの地震など、深部での地震発生が目立つことは気になる所である。地震予知については非常に困難な課題ではあるが、人間の英知と努力によって必ずや近未来において、現在の天気予報と同じように地震予報の発表される日が訪れるものと確信してる。

国際交流

平成14年度「夏期短期留学・海外研修」は中止!

学生委員会はオレゴン大学への夏期短期留学・海外研修を平成14年度は中止することを決定した。湾岸戦争以来11年ぶり2回目。この程、AEIのホックスタイン氏が来訪され、中止への経緯や今後の取り組み方等について懇談会が開催されました。

ホックスタイン氏の来訪と今後の短期留学について



学生部長 酒井陽一

米国人の特長は気さくさりと陽気さであろう。4月25日本学を訪問されたディアナ・ホックスタイン (Deanna Hochstein) 氏はその特質を遺憾なくお持ちのアメリカンレディであった。ホックスタイン氏は本学の姉妹大学であるオレゴン大学の AEI (American English Institute) の暫定所長 (Interim Director) の職にある。AEI は米語教育を通じた国際交流に関連する事項を所掌する組織である。氏の来訪目的は、主として次の3つであった。

- (1) オレゴン大学と大同工業大学のこれまでの友好・協力関係に対する謝意を表したい。
- (2) 大同工業大学のオレゴン大学との学生交流プログラムの今後の取り組み方について意見を交換したい。
- (3) オレゴン大学 AEI が計画している新規プログラムの説明をしたい。

昨年の9月米国で起こった同時多発テロリズムの記憶は未だ生々しい。この未曾有の事態を受けて、さらにその後の炭疽菌事件も勘案して、学生委員会は長年続けてきたオレゴン大学への学生の夏期短期留学と海外研修を平成14年度は中止することを決定した。湾岸戦争以来11年ぶり2回目のことである。今回のホックスタイン氏の訪問はこれらの背景抜きでは考えにくい。氏は15年度における本学の短期留学実施の帰趨が気になっているようでもあった。14年度の中止は異常事態に対応した緊急避難的措置である。本学としては、安全の確保・確認が大前提であるが基本的には長年行ってきたオレゴン大学短期留学を再開・継続したいとの考えも持っている。その方向で学生委員会の検討は進んでいる。以上のことを伝えると、ホックスタイン氏は嬉しそうに頷いておられた。

先日外国語教室パワーズ教授が「トム・ミルズ (Tom Mills) さんが、こんなことを書いてるよ。学生委員の皆さんに読んでもらったら」とコピーを学生部に届けてくれた。ミルズ氏はオレゴン大学の OIP (Office of

International Program) の所長であり、本学との国際交流に長年力を尽くしてくださっている方である。オレゴン大学同窓会誌「インサイダー」に掲載された氏の寄稿は「悲劇にもかかわらず異文化交流は成果をあげつつある」と題するものであり、昨年9月以来のオレゴン大学の国際交流、留学生事情が報告されている。留学生 (中近東からの学生を含めて) は大学に厚く歓迎されている。悲劇後の留学生の数もむしろ増加傾向でありオレゴン大学では安全に問題はないだろうという趣旨である。学生委員会としてはこのような資料をはじめ種々の情報を集め慎重に分析し15年度の方向を検討することになるであろう。読者の皆様からのご意見・ご希望も拝聴できれば幸いである。

オレゴン州立大学 Deanna Hochstein 氏 懇談会要旨

記録: 山内五郎情報学部教授



Hochstein 氏: 多年にわたる大同工業大学とオレゴン州立大学の友好関係は喜ばしいものであり、今回の大同工業大学訪問に際し、暖かく迎えていただいたことに感謝する。昨年の9月11日の事件は大変痛ましい事件であり、これに関連し、大同工業大学からの短期留学生派遣も中断したことは大変残念なことである。しかしながらオレゴン州立大学は、英語教育についての多年の実績と経験の積み重ねがあり、大同工業大学が、短期留学生の英語教育をどのような方向にもっていきたいか、ということが明確になれば、いつでも対応する用意があり、大同工業大学とともに、短期留学による英語教育のあり方を模索していきたい。

澤岡学長: 多年にわたって短期留学制度に協力いただき感謝したい。昨年の9月11日の事件により、短期留学制度が一時中止となったことは大変残念なことであるが、この機会を生かし今後のオレゴン州立大学への短期留学制度がどうあるべきかを考えていきたい。
懇談会参加者: 夏休みという短期間の留学



で効果があるのかという意見もあるが、参加者は、初めて海外の大学で生の英語に接し鮮烈な印象を受け、その後の英語学習の励みとなる。しかしながら本学学生に限らず日本人は学習時間に比べ英語の習熟度が十分でなく、従来の英語学習を見直す時期にきている。さらに新しく発足した情報学部では、サイエンスドキュメンテーションという新しい分野にも力を入れようとしており、オレゴン州立大学の英語教育も参考にしたい。

Hochstein 氏: 英語教育には教室での教科書を用いた学習以外に、実際にネイティブスピーカーと話してみるという経験の積み重ねが大変重要である。しかし、これがベストであるという英語教育法があるわけではない。大同工業大学の希望する方向性が明白になれば、オレゴン州立大学のこれまでの英語教育の蓄積に照らし、大同工業大学の留学生がより効率的に英語が習熟するよう協力したい。

ニューメキシコ工科大学 アラン・ミラー (Alan R. Miller) 名誉教授講演



情報学部1年次生「基礎演習」の授業として、4月22日、「近未来の情報技術～科学とアートの結びつき」と題して講演されました。

“アートと科学はお互いに役立ちます。情報技術は、アートと科学を結びつける仕組みです。”との講演に、分かり易く丁寧な通訳を山内五郎情報学部教授からして頂き、学生らは興味深く聞き入っていました。なお、質問者には思わぬニューメキシコ工科大学特製のTシャツのプレゼントがある等、より親しみを感じていました。



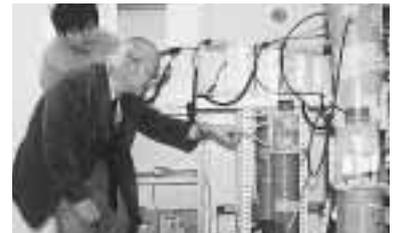
文部科学省「平成14年度 科学研究費補助金」採択状況

平成14年度の科学研究費補助金の採択が決定しました。
科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野における優れた独創的・先駆的な学術研究を進展させることを目的とする国の研究助成費です。
本年度の採択件数は、11件15,200,000円でした。

研究種目	継	所属部門	研究代表者	研究課題	交付額
基盤研究B 海外	継	都市環境デザイン	下島栄一	西オーストラリア半乾燥地域での蒸発・降雨・塩類集積の関係に関する観測的研究	2,000,000
基盤研究C 一般	継	都市環境デザイン	堀内将人	堀川水質への下水処理放流水の影響評価と汚染物質の河川中動態に関する研究	1,300,000
基盤研究C 一般	継	都市環境デザイン	水澤富作	橋梁スラブの衝撃応答に伴う衝撃音の伝播特性に関する基礎的研究	900,000
基盤研究C 一般	継	都市環境デザイン	下島栄一	半乾燥地域での地面蒸発・降雨と塩類集積の消長の関係	1,000,000
基盤研究C 一般	継	一般保健	服部洋兒	女性労働者の筋骨格系障害軽減を目指した人間工学的研究	500,000
若手研究B	継	都市環境デザイン	木全博聖	界面への水分吸脱着現象がコンクリート中の物質移動特性に与える影響の解明	700,000
基盤研究C 一般		一般人文社会	服部文彦	<arte>を軸にマキャヴェッリ思想の全体像を再評価する試み	1,500,000
基盤研究C 一般		情報	藤本 博	半導体基板への低エネルギー電子線照射による不純物添加	1,500,000
基盤研究C 一般		都市環境デザイン	酒造敏廣	はり中央でせん断崩壊する鋼製ラーメンのサブストラクチャ・オンライン地震応答実験	1,300,000
基盤研究C 一般		都市環境デザイン	棚橋秀行	土の透気・透油・透水性を考慮した油汚染土の修復に関する研究	2,600,000
萌芽研究		建築	光田 恵	におい刺激が臭覚以外の感覚に与える影響を利用した人間環境の創造手法	1,900,000
合 計					15,200,000

平成13年度共同研究・ 受託研究・奨学寄付金受入状況

共同研究・受託研究・奨学寄付金の受入状況は、12年度より5件増えて47件38,465,000円となりました。



研究種別	企業等名称	研究者名	金額
共同	大同特殊鋼株式会社	山本俊彦教授	2,000,000
共同	大同特殊鋼株式会社	坂貴教授	1,100,000
共同	大同特殊鋼株式会社	酒井陽一教授	1,100,000
共同	大同特殊鋼株式会社	岩間三郎教授	1,100,000
共同	東北大学金属材料研究所研究部	坂貴教授	-
共同	富士ダイス㈱	中島浩衛教授	500,000
共同	特殊発條興業㈱	和田均教授	500,000
共同	諏訪熱工業㈱	和田均教授、中島浩衛教授、近藤巖助教授、高藤新三郎助教授	500,000
共同	日本原子力研究所	岩間尚文教授	-
共同	日本原子力研究所	酒井陽一教授	-
共同	大同特殊鋼㈱	光田恵助教授	750,000
共同	三興石油株式会社	中島浩衛教授、山内五郎客員教授	600,000
共同	大同特殊鋼株式会社新分野開発センター	光田恵助教授	1,200,000
受託	大同特殊鋼株式会社	和田均教授	800,000
受託	大同特殊鋼株式会社	井上孝司講師	1,000,000
受託	大同特殊鋼株式会社	小森和武助教授	1,000,000
受託	大同特殊鋼株式会社	小野宗憲教授	1,000,000
受託	大同特殊鋼株式会社	中島浩衛教授	1,000,000
受託	大同特殊鋼株式会社	神保睦子教授	1,300,000
受託	大同特殊鋼株式会社	藤田順治教授	1,000,000
受託	大同特殊鋼株式会社	太田福男教授	800,000
受託	大同特殊鋼株式会社	堀尾吉巳助教授	800,000
受託	ミドリ安全㈱環境機器事業本部	光田恵助教授	1,000,000

研究種別	企業等名称	研究者名	金額
受託	神戸製鋼所 生産技術研究所	小森和武助教授	1,000,000
受託	中部電力㈱	渡邊慎一講師	1,260,000
受託	新日本製鐵㈱	中島浩衛教授	500,000
受託	㈱ナガラ	中島浩衛教授	600,000
受託	科学技術振興事業団	山内五郎客員教授	3,000,000
奨学寄付	㈱ナガラ	西堀賢司教授	300,000
奨学寄付	藤満工務店	太田福男教授	800,000
奨学寄付	ヨーコン㈱	山本俊彦教授	2,000,000
奨学寄付	社団法人鋼材倶楽部	酒造敏廣教授	400,000
奨学寄付	㈱ミズホ	山内五郎客員教授	500,000
奨学寄付	墨田トータルサービス	中村肇教授	20,000
奨学寄付	情報ストレージ	神保睦子教授	1,400,000
奨学寄付	社団法人豊田交通研究所	嶋田喜昭講師	400,000
奨学寄付	名古屋通信工業㈱	烏野壽章助教授	100,000
奨学寄付	アスカ株式会社	光田恵助教授	500,000
奨学寄付	新コスモス株式会社	光田恵助教授	200,000
奨学寄付	東亜合成㈱	光田恵助教授	300,000
奨学寄付	㈱藤満工務店	太田福男教授	1,575,000
奨学寄付	㈱ナボレックス	光田恵助教授	600,000
奨学寄付	大塚化学㈱	光田恵助教授	600,000
奨学寄付	㈱福島製作所	太田福男教授	1,000,000
受託試験	日本アドテック㈱	小野宗憲教授	20,000
助成金	財団法人日比科学技術振興財団	渡邊慎一講師	1,200,000
助成金	天田金属加工機械技術振興財団	土田 豊教授	1,200,000
合 計			38,465,000



キッケルハーンの山小屋をたずねて



教養部
外国語教室教授

福原 意玄

1780年、31歳のゲ - テはワイマルの南西50kmにあるイルメナウという小さな町の近くのキッケルハ - ン(861m)の山頂の狩人の山小屋で一夜を過ごし、夕日沈む山々を見て詩をつくり小屋内の壁に書きとめたのが、有名な「旅人の夜の歌」である。

Wanderes Nachtlied

Über allen Gipfeln
Ist Ruh,
In allen Wipfeln
Spürest du
Kaum einen Hauch;
Die Vögelein schweigen im Walde.
Warte nur, balde
Ruhest du auch.

旅人の夜の歌

山々の頂に 憩いあり
梢にそよ風の 動くも見えず
森には鳥の 啼くも止む
待てしばし 汝もまた憩わん

その4年前26歳のゲ - テはワイマル公カ - ル・アウグストの招きで中部ドイツ、チュ - リンゲンの森に程近いワイマルに来た。そし



山小屋の前で



山頂からの眺望

てそこが終生の地となったのである。公の相談役として来た彼は枢密顧問官としてかかえられ、やがて公国の総理大臣をも務めることとなる。彼が自然科学の研究をはじめのもその頃からである。鉱山の整理が鉱物の研究となり、森林の管理は植物学の研究となった。彼の研究は現代科学のように分析して自然を切り刻むものではなく、自然の中の生命を、その本質を見ようとするものであった。

ゲ - テはたびたびチュ - リンゲンの森の中にあるイルメナウを訪れ、その付近の山林を散策した。政治的用務もあったが、また逆にそれらの煩わしさから遠ざかりたかったのである。「雑然とした町からのがれ、人々の愁訴、欲望、手のほどこしようもない混乱をさけるために」と理解者シュタイン夫人に書いている。そして生気をとりもどした彼はワイマルへ帰っていった。ゲ - テの歩いたその道が今は18kmのハイキングコースとなっている。

私がここを訪ねたのは一昨年(2017)の8月下旬である。キッケルハ - ンの山小屋へのゲ - テの散歩道は「G」なる標識で示されている。しかしそこにいたるには、まず民家の裏の細い私道を通らねばならない。美しい道だが方向がわからない。民家の横の畑に人の気配がしたので道をたずねた。80歳ぐらいの老人が出てきて、道のはずれの柵の所まで案内してくれた。柵の鍵をあけ、ここをまっすぐに行けば「ゲ - テの道」に出るといふ。そして「このあたりはゲ - テがよく通ったのだ」と誇らしげに云った。

ゲ - テの道に出た。なだらかな坂道、縦の木の森が続く。所々「ファウスト」の中の「森と洞窟」を思い出させる岩場がある。誰一人として人に出会わない。時々鳥の啼き声がある。谷を渡りキッケルハ - ンの頂上へ向かう。同じような森の道が続く。山頂近くになると大きな木は

少なくなり、低い灌木に変わる。上から家族づれが降りてきた。あいさつをかわすと、家内の日傘を見て「下では雨が降っているのか」とたずねられた。

さらに上へ進む。一気に眺望がひらけた。はるか見晴らす山々、そこにあの山小屋があった。その眺望は太古から続く森の荒々しさではなく、人の心を癒す静かなやさしさを感じられた。小屋の壁に書き記されたあの詩は、今でもガラスがはめられて残っている。8月30日であった。

1831年の8月27日、82歳の誕生日を翌日にひかえ、死の半年前にゲ - テは再び散歩道を歩きこの小屋にたどりついた。そして自らが書き記したこの壁面の詩を目にして感慨にふけった。最後の二行「待てしばし、汝もまた憩わん」をみて「そうだ、そうだ」とうなずいたという。この「汝 (du) は誰に呼びかけたのか。勿論自分に対してである。この「憩い」とは何であったか。彼には遠くない自分の死の予感があったのだ。すべての人が帰り行く宇宙の静寂を見ていたのである。自然に抱かれ、自然の懐に包まれる感慨、そして死と再生、これは彼が自然から得た直観であり、彼の信念ともいえるものであった。私もまたこの深く自然に抱かれる憩いを呼吸し、山を下った。

ちなみに京都東山山麓に「哲学の道」があり、近年観光で訪れる人も多い。銀閣寺から南へ疎水沿いにあるこの道は大学町ハイデルベルクの「哲学者の道」Philosophenwegにちなんで名づけられたもので、西田幾太郎らがよく散歩したという。この道の近くに法然院という寺があるが、その墓地に『「いき」の構造』で有名な九鬼周造の墓がある。彼の墓標には西田幾太郎が自ら訳し自ら書いたゲ - テのこの「旅人の夜の歌」が刻まれている。

レゴロボット競技会「自立走行型トレジャーハンター」



情報機械システム工学科「創造設計製作実習」最終審査のレゴロボット競技会が、7月3日～4日、コンピュータ演習室で開催されました。独創性溢れるレゴロボットが34チーム(初日:14チーム、二日:22チーム)出場し、多数のレゴロボット(80セット)を使っての競技会を開催している大学は、全国的にも珍しく、特色ある授業といえるでしょう。



組み立てロボット「レゴマインドストームス」は、センサーやモータを含み部品数800で、グラフィカルなプログラミングによりコンピュータで自走できます。学生らは、一人1セットの組み立てロボットを1チーム2名で2セットを利用し、ピンポン球を集める機構と移動する



機構をタッチセンサー、ライトセンサーを用いて、組み込まれているプログラムを駆使しながら4週間掛けて独創性溢れるロボットを完成させました。

競技は、1.5m x 1.5m四方のコート内に20個のピンポン玉が置かれ、制限時間3分以内でどれだけロボットがピンポン球を集めるか。その数の成績に、ロボットの独創性、機能性、デザインの総合評価によって競われました。

コートに入ること無く立ち往生したロボット。やっと捕まえたピンポン球を移動中に取り逃がしてしまったロボット。障害物や壁に当たる毎に壊れてしまったロボット。入った!入ったと喜ぶ学生らで、B棟のコンピュータ演習室1(B0302)は、歓声と拍手、それに悲鳴と笑いが混じり合った競技会でした。

一つも取ることが出来なかったチームの声:
残念!製作時間が足りない。一個は取れると思ったが。



担当教員の西堀賢司教授は、独創性とセンサーやギアなどを駆使することにおいて、機械的な機構を学び取ってくれることを期待しています。

クラブ活動報告

ハンドボール部

東海学生春季1部リーグ戦

ハンドボール東海学生春季リーグ戦は、4月14日、石井記念体育館で愛知学院大学との初戦を皮切りに5月12日の名城大戦を最後に、3勝3負1分、4位の成績で終えた。

優勝を果たした中部大戦は、立ち上がり甘いシュートを速攻につなぐ6-0と勢いを付く。後半は落ち着きを取り戻し、速攻等から追い上げたが、スタートのつまずきは最後まで尾を引いた試合でした。

6月10日、(財)日本ハンドボール協会日本代表P(U-19)選考会は、01C 草原智也、02B 久保宮大の両君を、日本代表選手に選びました。東海学生リーグからは3名選考され、その内2名が本学から選ばれた。今後は、世界Jr選手権アジア予選に向けた強化合宿、ジャパンカップ等での活躍が期待されます。



草原智也君



久保宮大君

春季リーグ戦の結果

1位 中部大学	2位 中京大学
3位 名城大学	4位 大同工大
5位 愛知大学	6位 名古屋大学
7位 愛知学院大学	

大同工大 23-16	愛知学院大
大同工大 23-17	愛知教育大
大同工大 20-23	愛知大
大同工大 30-13	名古屋大
大同工大 18-24	名城大
大同工大 14-28	中部大
大同工大 20-20	中京大

あと一步!リーグ優勝も夢でない

6/9~16 東海学生選手権

3年生以下(新人戦)

1位 中部大A	2位 大同工大B
3位 大同工大A・中京大	
2回戦 大同工大A 17-11	愛知学泉大
大同工大B 14-9	名古屋大
3回戦 大同工大A 15-14	中部大C
大同工大B 12-7	名城大
準決勝 大同工大A 16-19	中部大A
大同工大B 23-18	中京大



決勝戦 大同工大 B 14 - 24 中部大 A

バレー部

東海バレーボール春季1部リーグ戦 1部リーグ残留を果たす

東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会は、4月13日に開幕し5月12日の最終戦をもって全日程が終了した。上位チームとの身長差の大きなハンディの中では、得意とする速攻(早い攻撃)を活かしきれずに初戦から敗戦が続いた。後半戦になってからは、本来の調子を取り戻し、持ち前のサーブプレシーブ、速攻が決まり出して危なげなく1部残留を決めた。

- 1位 名古屋学院大学(初優勝)
- 2位 愛知学院大学
- 3位 愛知大学
- 4位 中京大学
- 5位 名城大学
- 6位 大同工業大学
- 7位 愛知教育大学(入替戦)
- 8位 静岡産業大学(自動降格「2部」)

春季1部リーグの結果

- 大同工大 1 - 3 中京大
- 大同工大 0 - 3 愛知学院大
- 大同工大 0 - 3 愛知大
- 大同工大 1 - 3 名城大
- 大同工大 1 - 3 名古屋学院
- 大同工大 3 - 1 愛知教育大
- 大同工大 3 - 1 静岡産大

下位リーグ戦

- 大同工大 3 - 1 愛知教育大
- 大同工大 3 - 0 愛知大
- 大同工大 0 - 3 名城大

6/26~30 西日本

大学バレーボール男子選手権大会

予選リーグ

- 大同工大 3 - 2 神戸学院

決勝トーナメント

- 1回戦 不戦勝
- 2回戦 大同工大 0 - 3 甲南大
(関西1部4位)

陸上部

6/14~15 第55回

西日本学生陸上競技対抗選手権大会

- 01 J 大和立幸 10000m 32分39秒88
- 01 E 片桐雅樹 5000m 15分47秒15

5/17~19 第68回

東海学生陸上競技対抗選手権大会

- 01 J 大和立幸 10000m 30分54秒67
(5位入賞)

01 E 片桐雅樹 10000m 30分55秒95
(6位入賞)

- 00 M 大森弘之 1500m 4分14秒40
- 02 C 奥野 拓 1500m 4分18秒00
- 01 J 大和立幸 5000m 15分02秒92(9位)
- 01 E 片桐雅樹 5000m 15分09秒52(11位)
- 00 M 大森弘之 5000m 15分38秒05
- 01 M 宇野彰紘 5000m 15分49秒26
- 02 M 南康次郎 5000m 15分58秒15

漕艇部

エイトで決勝4位に!

6/7~9 第47回中日本レガッタ

シエルエイト決勝

- 優勝 中部電力
- 2位 タカニチ・トヨタ・ソニー
- 3位 名古屋大学
- 4位 大同工業大学
- 5位 中電火力RC

6/29~30 第34回中部学生選手権大会

シングルスカル決勝

- 4位 01 J 安藤徹哉

硬式野球部

4部に降格!

4/7~6/9

愛知大学野球(3部)春季リーグ戦

- 大同工大 0 - 28 愛知工業大
- 大同工大 1 - 13 愛知工業大
- 大同工大 6 - 4 名古屋外国大
- 大同工大 5 - 9 名古屋外国大
- 大同工大 2 - 3 名古屋外国大
- 大同工大 0 - 9 愛知大
- 大同工大 0 - 15 愛知大
- 大同工大 2 - 12 南山大
- 大同工大 5 - 7 南山大
- 大同工大 16 - 15 名古屋市立大
- 大同工大 10 - 8 名古屋市立大

入れ替え戦(3部)

- 大同工大 2 - 15 名古屋大
- 大同工大 0 - 14 名古屋大

剣道部

6/2 東海学生剣道選手権大会

- 02 B 赤石幸祐 個人選 2回戦

5/19 第49回東海学生剣道

新人選手権大会

- 01 E 大橋健一 個人選 2回戦

硬式テニス部

5/18~6/15 第6回

東海学生チャレンジテニストーナメント大会

- 00 M 岸本圭太 シングルス F(5回戦)
- 01 M 村中孝博 シングルス SF(4回戦)
- 01 M 滝本茂宏 シングルス 3R(3回戦)
- 01 D 中村裕輔 シングルス 3R(3回戦)
- 01 M 村中 / 00 M 岸本ダブルス 3R(3回戦)
- 01 A 稲垣 / 01 D 藤川 ダブルス 3R(3回戦)

空手道部

6/2 東海地区空手道選手権大会

- 男子団体戦 組手 2回戦
- 01 M 神谷健太郎 組手 2回戦
- 00 A 夏山洋一 組手 2回戦
- 99 D 宮田敬三 組手 2回戦
- 01 C 今井野衣 女子組手 2回戦

4/29 東海地区

大学空手道選手権大会個人戦

- 99 E 三階繁輝 組手 2回戦
- 99 M 鈴木 純 組手 2回戦
- 99 D 宮田敬三 組手 2回戦
- 00 A 夏山洋一 組手 2回戦
- 00 M 箕浦正和 組手 2回戦
- 01 D 古川崇史 組手 2回戦
- 01 C 今井野衣 女子組手 2回戦

ダンス部

惜しい優勝逃がす!

5/12 中部日本

プロアマ級別ダンス競技福井大会

- 99 D 宮田敬三・99 A 原子和美
- アマチュア ラテンアメリカンC級 サンバ
準優勝

マウンテンバイク部

雨のため、ダウヒル決勝

中止となるが大健闘!

5/19 シバスラ&ダウヒルスラローム

- 00 M 大野伸一郎
- シバスラ・ハードテルクラス 6位
- ダウヒル・ハードテルクラス 予選1位
- 02 M 青木健司
- シバスラ・フルサスクラス 1位
- ダウヒル・フルサスクラス 予選3位

ワンダーフォーゲル部

6/1~2

第16回丹沢ポッカ駅伝競走大会

- 一般20kgの部 総合10位

フットサル部

6/15 NSG one day ビギナーズリーグ

- 8試合全勝し、5チーム中1位

大学院客員教授渡邊悟先生を偲ぶ



大学院工学研究科
電気・電子専攻教授
水野 義雄

今回渡邊先生の追悼文を書くとは、思いも寄らなかった。夢であって欲しい。

本学大学院客員教授渡邊悟先生は、平成14年5月26日ご逝去されました。

私と渡邊先生との係わりは、昭和53年にさかのぼります。私が岐阜大学医学部反射研究施設に入局し現在まで、足かけ25年の間教育ならびに研究のご指導を仰ぎました。当時の反射研究施設では、ヒトの姿勢制御に関する研究が進められ、重心計測器の開発が主流でありました。医学部でなぜ機器の開発か、と思われる方があるかもしれませんが、渡邊先生は名古屋大学医学部大学院在学中、工学部電気工学科の市川研究室で盛んに電気工学について学ばれました。そこで学ばれた多くの知識が、いわゆる電気生理学として応用できることに着目し、それ以降は神経生理学を専門とされ世界でも一流の学者として活躍されました。

私が入局して3年後、日本がスペースシャトルを利用した宇宙実験「F M P T (第一次材料実験)」に着手することが決まり、日本初の宇宙飛行士の選考にも貢献されました。毛利さん、向井さん(当時は内藤さん)、土井さん、この3名の宇宙飛行士は、渡邊先生と深いつながりを持っています。「F M P T」では材料のみならず、生命科学の実験も含まれていました。私たちはこのプランに参画するため、過重力に対する動物の生体反応を調べることを目的とし、特に動物の姿勢と重力の作用方向について研究を進めてきました。この実験を遂行するためには、X・Y・Zのそれぞれの軸が可動する装置が必要で、その装置の試作をお願いするために大同特殊鋼機械事業部を訪問しました。当時の機械事業部長は、本学前理事長の横井信司氏でした。横井信司氏は、渡邊先生が大学院生の頃電気工学を学んだ市川研究室で当時助手の職にあり、感動的な再会場面を今でもはっきりと覚えています。

こうして大同特殊鋼で試作していただいた「3次元可動軸装置」は、その後島津製作所による「空間識実験装置」へと発展し、姿勢と深く関係する前庭機能の解明に多に貢献しました。岐阜大学・名古屋大学・藤田保健衛生大学を歴任され、大同産業医学研究所所長

に着任されたときは、前庭機能の定説(ノーベル賞)をくつがえす実験に発展し、その実験を大同工業大学神経科学ラボが担当していました。ここ数年間は着実にその成果が上がリ、ドイツベルリン自由大学との共同研究も進み、平成13年本学で国際シンポジウムを開催することもできました。この成果をもとに、現在さらに実験を積み重ね、新説を起草するために日々実験を重ねたさなかでした。

5月25日は実験日でしたが、大学祭開催の関係もあり実験を延期する電話をしたとき、多少疲れて見える様子でした。午後7時22分渡邊先生からの電話を受け、「大変なことが起こりました。私倒れてしまい入院しているんです。月曜日病室に来てくれますか。」とても元気な声でした。「わかりました、月曜日伺います。」そう答えて電話を切りました。それから数時間後、渡邊先生はご逝去されました。今振り返ると渡邊先生は、私にとつもない大きな宿題を出されました。この宿題の完結に向けて、どのように進めたらいいのか、正直混沌とした気持ちがあるのみです。しかし、時は過ぎます。何時までも考えてばかりで行動を示さなかったら、渡邊先生は激怒されるでしょう。そんな激怒をもう一度聞きたい。

渡邊先生のご冥福をお祈りいたします。
合 掌



渡邊 悟先生経歴

生年月日	1933年2月9日(69歳)
本籍	愛知県名古屋市
学歴	1962.7 名古屋大学大学院医学研究科博士課程終了
職歴	1972.1 岐阜大学医学部教授 1984.10 名古屋大学環境医学研究所教授 1996.4 藤田保健衛生大学教授 1999.4 大同病院大同産業医学研究所・顧問 2000.4 大同工業大学大学院客員教授
受賞	1998.7 国際宇宙科学アカデミー(IAA);生命科学賞

テレビに出演

澤岡 昭学長がNHK総合テレビ番組「おしゃべりらんち」5/14 11:00~に出演。番組は、愛知、岐阜、三重の東海三県向けの生活情報番組。NHK名古屋局のスタジオでキャスターが本学紹介のVTRや澤岡学長のプロフィールのVTRを見ながら生放送。

佐藤達生建築学科教授監修のTBS番組「世界遺産『ランス大聖堂』」が5/19(日) 23:30~CBCTVから放送。

鬼頭哲哉氏(経営企画本部)の鉄道模型作りが、5/15テレビ愛知の番組「ニュースアイ」17:00~趣味の特集で「鉄道模型組み立てに夢中」として放送。

光田恵建築学科助教授が6/9(日) 9:30~東海テレビ番組「テレビ博物館」に出演。梅雨時期に家庭で気になるにおいとその原因と対策ついて、東海3県と関西で放送。また、5/27(月) 9:55~東海テレビ番組「びーかんテレビ元気がいいね!」の番組の中で「家庭でもできる汗のにおい対策」での実験出演。



新刊著書を語る

例題で学ぶ C 言語の基礎

B5版 168ページ

著者 大石弥幸

(電気電子工学科教授)

出版社 ムイスリ出版

発行日 2002.3.23



コンピュータのプログラム言語は外国語に似ています。単語(命令)を暗記し、文法を学び、慣用表現(アルゴリズム)を覚えます。C言語の教科書はたくさん出版されていますが、良い本を選ぶのが難しいのも外国語と同じです。

この本は、本学のC言語の授業で使用したプリントを基に、大幅に加筆して初心者向けの教科書にしたものです。最大の特徴は、プログラムと書き方の例をたくさん用意したことです。文法を正確に表現することは大切ですが、逆に抽象的でわかりにくいことにな

大同工業大学特別試写会「陽はまた昇る」

いまハングリー精神必要

澤岡 昭学長が語る



一介の技術者たちが底力を見せた映画「陽はまた昇る」東映配給。リストラ要員された技術者が“夢”を追い求めて家庭用ビデオ・VHSを開発、「世界標準規格」を獲得する。6月11日、名古屋市公会堂で「毎日新聞社主催：大同工業大学特別試写会」が開催された。澤岡学長はこの映画を見て「日本の産業は空洞化している。もう一度、再生するために第2、第3のVHSが必要。その手本になるような映画」と絶賛。6月14日、毎日新聞社朝刊に掲載された記事を紹介し、(毎日新聞中部本社、「陽はまた昇る」製作委員会、東映株式会社中部支社提供)



この映画をご覧になられて、どんな感想を持たれましたか。

学長：この映画で描かれている技術分野は私の専門に近く、話としては知っていましたが、こうした形で見ると、改めて涙がでるほど感動しました。ぜひ、理工系だけでなく、文系の学生にも見て欲しいですね。映画の主人公である加賀谷さんが「このビデオが生まれた元となった技術は自分たちだけのものではなく、あらゆるものを取り入れ、しかも、オープンにすることによって世界規格になれる」と言っていますが、この発想は経営戦略としても超一流の経営者の発想です。コンピュータソフトも全部を自分で抱え込んでしまったら普及しません。ある程度までいったらどんどん公開し、いろいろな人の意見を聞きながらバージョンアップし世界規格になっていくのが常識となっています。しかし、あの時代にハード技術を秘密にせずオープンにしたことはすごいことだと思います。

いまの日本にも通用する内容をもっていますか。

学長：松下電器ご出身で、現在は東海大学教授の唐津一さんが、日本はもう一度再生すると予言した本を書いておられます。その題名が「陽は必ず昇る」で、この「陽」とは「日」、つまり日本を指しています。日本の産業の空洞化が進んでいます。もう一度日本が再生するためには、第2、第3のVHSが出てこなければなりません。その手本となる話だと思います。そのために技術をオープンにし、ユーザーからフィードバックしてもらい、改良、開発につなげていかなければなりません。VHSが成功した理由はそこにあります。しかも、今では他の企業や外国が追いついてこないために、特許とスピードが命です。



いまの日本に必要なことは。

学長：大同工業大学は日本の技術力を高めようという目的で、63年前に創立した、もともと産学連携の大学です。かつて、産学連携は悪と捉えられていました。私自身も25年前に、隠れてある企業とビデオの磁気ヘッドの研究に取り組んでいました。隠れて研究することに一種スリルのようなものも感じていました。しかし、国を



挙げて産学連携が叫ばれているいま、隠れて行う研究の楽しみというものが失われています。弾圧され、ハングリーな気持ちになることも大切です。その意味では、いまの大学は研究費などに恵まれています。ただ、地方の国立大、中堅クラスの私立大はあまり恵まれてはおりません。その分、可能性が大きいともいえそうです。いま、日本に必要なのはハングリー精神です。

そのために必要な人材の育成は。

学長：日本の企業から出てきた技術の半分は、大金を投じた会社のプロジェクトそのものからではなく、いわばプロジェクトの陰に隠れて行ったものから出ています。ところが、最近はそのようなお目こぼしできる資金や人材、精神的余裕がなくなっています。そうした意味で、この映画は教科書です。国のプロジェクトや大学の研究でも同じです。

大同工業大学に新設された情報学部にはどんなことが期待できますか。

学長：いままでの日本の技術というのはほとんど以心伝心で、技術のドキュメントを書けるエンジニアが育ってきませんでした。腕さえ良ければ優秀な人材でした。しかし、これからは、映画の登場人物のように口が達者でプレゼンテーションもできる人材が求められます。とくに中堅企業にはドキュメントやマニュアルの書ける専門家はほとんどおりません。そのための人材を育てていくのが大同工業大学の情報学部です。

●あらすじ

70年代前半の日本。高度成長期だった経済が、戦後初めてマイナス成長に陥った。体力を失った企業は大幅なリストラを図り、コスト削減に走る。当時、家庭用ビデオでベータマックスの圧倒的有利の下馬評を覆し、世界標準規格に登りつめたVHS誕生の秘話。故高野鎮雄氏をモデルとした日本ビクター横浜工場ビデオ事業部長・加賀谷静男の掲げる夢に、最初は気乗りしなかった部下たちがひとつになる。加賀谷は「日本ビクター」本社に勤める開発技師。あと数年で定年を迎える加賀谷に、横浜工場ビデオ事業部への異動命令が降りる。そこは非採算部門だった。ビデオ事業部員240人の20%の人員削減、それが加賀谷に課せられた社命だった。非採算部門の“夢”はこの絶望の中から生まれた。プロジェクトチームを発足させた加賀谷は希望を託して試作機を作る。その名前は Video Home System。



ります。たとえば、
`printf("書式制御文字",[引数1,引数2,...]);`
という表現が多くの本で見られます。しかし、これを100回読んだところで何も書けません。まずは実例を見ることです。

また、この教科書では無理をしてC言語の全てを網羅することはやめました。しかし、初級、中級に必要なことは必ず触れて、上級で必要になる事項は自習できるまで力がつくように書かれています。

もうひとつの特徴は、些細なことでも初心者が陥りやすい過ちをたくさん示したことです。実際の授業で学生の皆さんが悩んだ経験をここに生かしています。この本は私の授業を受けた皆さんも共著者なのです。

平成13年度 学部生・院生の学会発表状況

演 題	学 会 名	学生・院生名	指導教員
超音波モータを指にもつロボットハンドの駆動特性の安定化	日本機械学会	98M長澤正明	西堀賢司教授
マシニングマシンの異常音検出装置の開発	日本機械学会	98M石川前衛	西堀賢司教授
超音波モータのPWM駆動方式の改善	日本機械学会	98M西口慶彦	西堀賢司教授
超音波モータを指にもつロボットハンドの把持力制御(定在波導入PWMの検討)	日本機械学会	00MM小宮一博	西堀賢司教授
鉄鋼材料の熱間据込み加工におけるマイクロ組織予測のためのFEM連成解析とモデリングの検証	日本塑性加工学会	00MM小田 洋	中島浩衛教授
RELIABILITY EVALUATION OF PREDICTION OF MICROSTRUCTURE IN HOT ROLLING OF STEEL FOR ECO-PRODUCTIVITY	International Workshop on Environmentally Conscious Metal Processing	00MM小田 洋	中島浩衛教授
薄鋼板の浅絞り成形における1ステップFEM解析による形状性の評価	日本塑性加工学会	00MM真野元希	中島浩衛教授
セルフセンシング・アクチュエーションにおけるブリッジバランスの調整	日本機械学会	98M城野武史	大嶋和彦助教授
バイモルフ型圧電アクチュエータを利用したソフトハンドリング・グリップの力制御	日本機械学会	00MM金子貴伊	大嶋和彦助教授
積層型圧電アクチュエータのセルフセンシング・アクチュエーション	日本機械学会	00MM目方孝規	大嶋和彦助教授
穿孔圧延の変形及び温度解析	日本塑性加工学会	00MM鈴木 稔	小森和武助教授
異種接合材における応力波伝ば挙動	日本機械学会	00MM久保知之	杉浦正勝教授
銅めっき箔による応力測定への画像処理の適用(応力比と応力波形の影響について)	日本機械学会	00MM荒川亜富	杉浦正勝教授
惣型鋳造法による伝承技術のものづくりへの展開	日本鋳造工学会	00MM北原大和	青山正治教授
伝統的鋳造法におけるそご惣型鋳造法に関する研究	日本鋳造工学会東海支部	00MM北原大和	青山正治教授
垂直平板近傍における気液2相流中のポイド率分布	化学工学会	00MM落合正規	中村 肇教授 松浦章裕助教授
S45C材の摩擦圧接継手に対する衝撃引張強度特性	日本機械学会東海支部	00MM川邊隆佳	和田 均教授
超高压力溶体化処理によるMg-Al合金の機械的性質変化	日本機械学会	00MM前川太志	近藤 巖助教授
組合せ押し出し加工のシミュレーション	日本機械学会東海支部	98M村井映介 98M堺 厚志	小野宗憲教授
4段等断面せん断押し出しの開発	日本塑性加工学会	00MM成田 満	小野宗憲教授
摩擦攪拌法を利用した工業用純アルミニウムの組織制御	軽金属学会	00MM駒谷武史	小野宗憲教授
回転式ECAP法で処理したマグネシウム合金の超塑性	軽金属学会	00MM長瀬正和	西田客員教授 小野宗憲教授
回転式ECAP法で処理したアルミニウム基複合材料の超塑性	軽金属学会	00MM長瀬正和	西田客員教授 小野宗憲教授
三次元壁面噴流に関する実験	日本機械学会東海支部	01MM松井信也	伊藤昇一教授
よどみ平面近傍に形成された超過エンタルピ火炎の火炎特性に関する実験研究	自動車技術会中部支部学生 自動車研究会	00MM伊藤元幸 98M谷川安彦 98M水谷芳崇	伊藤昇一教授
よどみ領域における予混合火炎の消炎に対する曲率効果	自動車技術会中部支部学生 自動車研究会	00MM柄澤正直 98M岩崎裕司 98M竹田 智	伊藤昇一教授
高い熱伝達特性を持つバーナー開発に関する基礎的研究	自動車技術会	01MM徳田敏哉	伊藤昇一教授
Inconel718の静的再結晶(Ni基耐熱合金のプロセスモデリング)	日本塑性加工学会	00MM中澤卓也	土田 豊教授
多段加工工程におけるInconel718の組織変化(Ni基耐熱合金のプロセスモデリング)	日本塑性加工学会	00MM中澤卓也	土田 豊教授
加圧溶解鋳造低炭素高窒素マルテンサイトステンレス鋼の特性	日本鉄鋼協会	00MM駒瀬篤史	土田 豊教授
摩擦攪拌接合した5083および6061アルミニウム合金の組織と機械的性質	日本軽金属学会	00MM玉木崇晴	土田 豊教授
SCM435鋼の球状化処理条件の硬さ及びマイクロ組織への影響	日本熱処理技術協会	00MM永木聖司	土田 豊教授
発電ボイラの脱硝プロセスのモデリングと制御	計測自動制御学会	99MM山賀洋和	藤井省三教授
FGE法で作製したGeナノ粒子の構造のガス流速依存性	粉体粉末冶金協会	01K D田仲 圭	岩間三郎教授
FGE法によるZnSナノ粒子の作製	電気関係学会東海支部	01K D田仲 圭 00E M佐久間貴之	岩間三郎教授
Crystal Structure and Particle Size of Ge-Nanoparticles Depending on the Flowing Gas Evaporation Conditions	日本MRS学術シンポジウム	01K D田仲 圭	岩間三郎教授
FGE法で作製した正方晶Geナノ粒子	応用物理学関係連合	01K D田仲 圭	岩間三郎教授
窒素・酸素混合気体中における負コロナ放電のオゾン発生特性	電気関係学会東海支部	98E石島大輔	関谷昌久教授
パルスダウンゼント法による電離係数の測定	電気関係学会東海支部	00E M海野健一	近藤芳孝教授
低真空N2中における微小曲率針端コロナの発光特性	電気関係学会東海支部	00E M中村恭教	近藤芳孝教授
照明色彩環境が人に与える影響	電気関係学会東海支部	98E堀 智哉 98E青島健二 98E若泉吉史 98E和志武隆	西村政信講師
有彩色ルーバ照明の計算法の研究	電気関係学会東海支部	98E森田喜隆 98E小林 中 98E三輪義幸	西村政信講師
各種照明色彩環境におけるりんごの見え方	電気関係学会東海支部	98E宮地厚善 98E小林大樹	西村政信講師
蛍光体を含む表面色の相互反射効果	電気関係学会東海支部	98E水野裕介 98E津村崇介	西村政信講師
L a e qの長時間計測値と短時間計測値の関係	電気関係学会東海支部	00E M小倉敏満	三品善昭教授 大石弥幸教授
LASER-AIDED MEASUREMENTS OF NANO-PARTICLE DENSITY IN AN RF DISCHARGE	International Symposium on Laser-Aided Plasma Diagnostics	00E M森岡弘道	藤田順治教授
マイクロ波プラズマによる機能性薄膜形成	プラズマ・核融合学会	98E鬼頭 宏 00E M森岡弘道	藤田順治教授
レーザーを用いたガス流中銅微粒子の空間分解計測 / 高周波放電プラズマとの相互作用	核融合科学研究所研究会	98E安藤篤宏 00E M森岡弘道	藤田順治教授
レーザ散乱を用いたプラズマ中微粒子の密度測定	プラズマ・核融合学会	00E M森岡弘道	藤田順治教授

演 題	学 会 名	学生・院生名	指導教員
OFDM の伝送特性に関する研究	電気関係学会東海支部	01 E M大森 純	井上茂樹教授
生体信号を対象としたウェーブレット変換の時間分解能の検討	電気関係学会東海支部	00 E M加藤 巧	高田和之教授
多次元自己回帰モデルを用いた心拍・血圧の周波数解析	電気関係学会東海支部	00 E M吉田 豊	高田和之教授
移動体通信規約のための通信装置の設計	情報処理学会	98 E 横口健介 98 D 小竹一也	小川 清 氏 名市工研
Mosquitonetを用いた, Linux 上の Mobile IP の拡張と改良について	電気関係学会東海支部	98 D 小竹一也 98 E 横口健介	小川 清 氏 名市工研
Mobile IP のプライベートアドレス対応について	電気情報通信学会	98 D 小竹一也 98 E 横口健介	小川 清 氏 名市工研
プログラマ教育における情報交換の仕組みについて	電気情報通信学会	98 D 伊藤理博 98 D 樋口貴哉	小川 清 氏 名市工研
各種身障者の歩行特性に関する一分析	交通工学研究発表会論文	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
異なるごみ焼却施設周辺の住民意識に関する比較分析	環境情報科学論文	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
コンジョイント分析を用いた街路景観評価に関する研究	土木学会	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
ゴミ処分場建設計画に対する地域住民の意識について	土木学会	01 B M上村広治	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
異なる迷惑施設の住民意識とその許容条件に関する考察	土木学会	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
コンジョイント分析を用いた街路景観評価手法に関する研究 街路付近の住民と施設利用者の比較分析 -	都市計画学会中部支部	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師
身障者混入時における歩行特性分析	土木学会中部支部	98 C 小川幹雄 01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師 舟渡悦夫教授
交流分析を用いた若者の性格と交通事故・罰則経験との関連性	土木学会中部支部	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師
通行状態からみた交通事故・ヒヤリ地点の指摘とその内容	土木学会中部支部	98 C 長谷川将広 96 C 青木俊樹	舟渡悦夫教授
コンジョイント分析を用いた街路景観の整備評価手法の検討	土木学会中部支部	01 B M星野貴之	嶋田喜昭講師
GPSを用いた広域地盤沈下調査に関する研究	土木学会	01 K 松田康弘 99 B M山根宏之	大東憲二助教授
キャピラリーバリアを利用した地下水汚染拡大防止対策に関する研究	土木学会中部支部	98 C 澤登勝也 98 C 伊藤 圭 98 C 鈴木寿和	大東憲二助教授
堀割構造物建設に伴う周辺井戸への影響	土木学会中部支部	98 C 下里正弘 98 C 中村文則	大東憲二助教授
GPSとGISを用いた広域地盤沈下の調査と予測	土木学会中部支部	98 C 佐伯茂雄 98 C 岡田晋治 98 C 久保田恭史	大東憲二助教授
GISによる三次元地盤構造の推定と地盤沈下シミュレーション	地盤工学会	99 B M山根宏之 01 K 松田康弘	大東憲二助教授
広域地盤沈下の原因評価における地盤環境情報の利用	地下水地盤環境シンポジウム	01 K 松田康弘 99 B M山根宏之	大東憲二助教授
GPSを用いた広域地盤沈下調査 濃尾平野蟹江地域を例として	検査技術	01 K 松田康弘 99 B M山根宏之	大東憲二助教授
飽和カラム試験に基づく～有効空隙率neの相関について	土木学会	98 C 伊藤拓正	棚橋秀行講師
不飽和カラム試験装置の改良と考察	土木学会	98 C 吉沢昌隆	棚橋秀行講師
不飽和土柱カラムを用いた水溶性物質の分散に関する室内実験	土木学会	01 B M工藤良介	棚橋秀行講師
2方向に変厚な扇形Mindlin板の振動解析	土木学会	01 B M木村健一	水澤富作教授
Differential Quadrature法を用いた変厚木板の振動解析	土木学会	01 B M滝沢宣人	水澤富作教授
鋼球の衝突を受ける平板から発生する衝突音の音響インテンシティの分布特性	土木学会中部支部	98 C 河原田 豊 01 B M滝沢宣人	水澤富作教授
平板から発生する衝突音に関する基礎的研究	土木学会中部支部	01 B M滝沢宣人 98 C 河原田 豊	水澤富作教授
spline Prism法を用いた直交異方性厚板の振動解析	土木学会中部支部	98 C 名木野晴暢	水澤富作教授
極異方性板理論を用いた扇形Mindlin板の振動解析	土木学会中部支部	01 B M木村健一	水澤富作教授
Spline要素法を用いた2方向に変厚な扇形Mindlin板の振動解析	構造工学論文集	01 B M木村健一	水澤富作教授 近藤八重非常勤
堀川水質の水平・鉛直濃度変化に注目した汚染機構の検討	土木学会	00 B M久保田智大	堀内将人教授
浅い地下水水面を有する砂層での蒸発-凝結の実験	土木学会	00 B M平尾和久	下島榮一教授
日常生活で経験する室内および室外の温熱環境評価	日本建築学会東海支部	98 A 鈴木祥太 98 A 野田恭宏	渡邊慎一講師
樹木が歩行者に及ぼす温熱的影響に関する	日本建築学会東海支部	98 A 野田恭宏 98 A 鈴木祥太	渡邊慎一講師
高齢者施設における低濃度臭気の測定法に関する研究	日本建築学会東海支部	98 A 平井真貴	光田 恵助教授
高齢者施設の居室における空気質測定法に関する研究(第1報)連続測定が可能なセンサによる実測例	日本建築学会東海支部	98 A 田中聖也	光田 恵助教授
高齢者施設の個室におけるゼオライトパネルの脱臭効果(第1報)入居から6か月間の調査結果について	日本建築学会東海支部	98 A 加納匡経	光田 恵助教授
厨房排気の臭気特性と制御に関する研究(第1報)実験方法および被験者特性	日本建築学会東海支部	98 A 大谷 学	光田 恵助教授
厨房排気の臭気特性と制御に関する研究(第2報)厨房排気の臭気特性	日本建築学会東海支部	98 A 大森克義	光田 恵助教授
厨房排気の臭気特性と制御に関する研究(第3報)厨房排気の臭気問題と対策について	日本建築学会東海支部	98 A 河合新吾	光田 恵助教授
高齢者施設における消臭剤による臭気の除去効果に関する研究、におい環境学会	におい環境学会	98 A 平井真貴	光田 恵助教授
高齢者施設内における臭気の制御方法に関する研究(第2報)消臭剤の適用方法に関する検討	空調調和・衛生工学会	98 A 平井真貴	光田 恵助教授
厨房排気の臭気対策について	におい研究交流会	98 A 大谷 学 98 A 河合新吾 98 A 大森克義	光田 恵助教授
抗菌・消臭フィルターによる臭気物質の除去効果について	におい研究交流会	98 A 進士拓一	光田 恵助教授
高齢者施設における臭気の測定方法について(その2)連続モニターによる空気環境測定法	におい研究交流会	98 A 田中聖也	光田 恵助教授
高齢者施設の居室における臭気対策について(その1)ゼオライトパネルによる消臭対策	におい研究交流会	98 A 加納匡経	光田 恵助教授
高齢者施設の居室における臭気対策について(その2)液体消臭剤による対策	におい研究交流会	98 A 加納匡経	光田 恵助教授

クリーン
キャンパス
GM²
2002年、大同工業大学は
グッド・マナー・
モラル宣言

キャンパス
カレンダー

7月

22日(月) 前期定期試験期間(8月3日まで)

8月

5日(月) 前期追試験期間(8月7日まで)

8日(木) 夏季休業開始(9月23日まで)

28日(水) リーダースキャン(30日まで)

9月

2日(月) 「試験結果通知書」配布・
異議申請受付期間(3日まで)

3日(火) 成績確認期間(9日まで)

17日(火) 学修指導期間(20日まで)

18日(水) 第2回就職ガイダンス(20日まで)

23日(月) 夏季休業終了

24日(火) 履修ガイダンス(27日まで)

30日(月) 後期授業開始

10月

5日(土) 集中講義・補講

7日(月) 「履修申請確認表」配布
「履修変更申請書」受付開始
(土日除く25日まで)

8日(火) 「履修申請確認表」配布

12日(土) 集中講義・補講

15日(火) 第3回就職ガイダンス(21日まで)

19日(土) 集中講義・補講

22日(火) 体育大会

23日(水) 体育大会

25日(金) 履修申請変更届締切日

26日(土) 集中講義・補講

28日(月) 就職適性検査(30日まで)

小森和武助教授

日本塑性加工学会・会田技術奨励賞を受賞

小森和武情報機械システム工学科助教授は、5月24日、千葉大学で開催された平成14年度塑性加工春季講演会において、日本塑性加工学会・会田技術奨励賞(個人賞)を受賞されました。

受賞題目は「計算工学を利用した伸線・その他の加工解析」で、5月25日に同講演会において受賞講演が行われました。



後援会だより

平成14年度後援会定期総会は、5月19日(日) コピーホールで開催されました。総会には、221名のご父母が出席され、新旧役員の交代をはじめ平成14年度事業議案などが提案どおり承認されました。今年度の教育懇談会は、特に希望されたご父母に限られて個人面談が行われました。

各地域で開催される教育懇談会には是非お越し下さい。

平成14年度 大同工業大学後援会
教育懇談会日程表

月日	地区	会場名
9.21(土)	愛知	ホテルアソシア豊橋(豊橋)
9.21(土)	静岡	アソシア静岡ターミナル(静岡)
9.28(土)	北陸	ホリデイン金沢(金沢)
9.29(日)	近畿	ホテルポストクラブ草津(滋賀)
9.29(日)	岐阜	グラン・パレ・ホテル(岐阜)
10.5(土)	三重	フレックスホテル(松阪)
10.5(土)	中国	広島グランドインテリジェントホテル(広島)
10.6(日)	四国	宝荘ホテル(松山)
10.6(日)	長野	ホテル岡谷(岡谷)
10.13(日)	愛知	ホテルグランコート名古屋(名古屋)
10.19(土)	近畿	大阪第一ホテル(大阪)
10.19(土)	静岡	浜松名鉄ホテル(浜松)

10:30~15:00(名古屋のみ10:00~14:30)



水野義雄教授

東海市体育協会より感謝状を授与

水野義雄教授教養部保健体育教室教授は、平成9年4月から平成11年3月まで東海市体育協会の副理事長。平成11年4月から平成14年3月まで東海市体育協会副会長を務められ、東海市体育協会の発展に寄与されました。



訂正とお詫び

40、INFORMATION、人事部からのお知らせで、客員助教授、横山弥生先生の前任期は、H13.6.1~H13.3.31の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

まだ間に合う!

エクステンション講座

4月よりスタートしたエクステンションセンターの資格取得支援講座は、ほとんどの講座が定員オーバーとなり、改めて、学生の資格に関する意識の高さに驚いています。

今からでも間に合う講座には、「福祉住環境コーディネータ(3級)講座」「MOUS(Word)試験マスター講座」「MOUS(Excel)試験マスター講座」「初級シスアド試験直前演習講座」「基本情報技術者試験直前演習講座」などがあります。

詳しくは、講座案内パンフレット、ホームページ、またはA棟1Fカウンターでご確認下さい。(エクステンションセンター)



2002 FIFA W杯

コピーホールは
大ファイバー

6月18日、日本×トルコ戦を学生室・教務室の枠からはらいて、コピーホールの大型スクリーンで観戦。学生らでほぼ満室になったホールは大歓声に包まれました。



編集後記

宴祭は感動したね。時おり強く振り出す雨、美流輝移仮装行列は、ずぶ濡れになりながら、栄の繁華街を練り歩く。街行く人々は、立ち止まって見ることさえ、哀れと思い足早に過ぎ去って行く。この心意気が宴祭を盛り上げた。フィナーレの壇上で、大学祭実行委員会委員長の涙。“わかる”ジーンと胸が熱くなりました。

社会交流センター

E-mail: pccir@daido-it.ac.jp

大同工業大学ホームページ

http://www.daido-it.ac.jp/